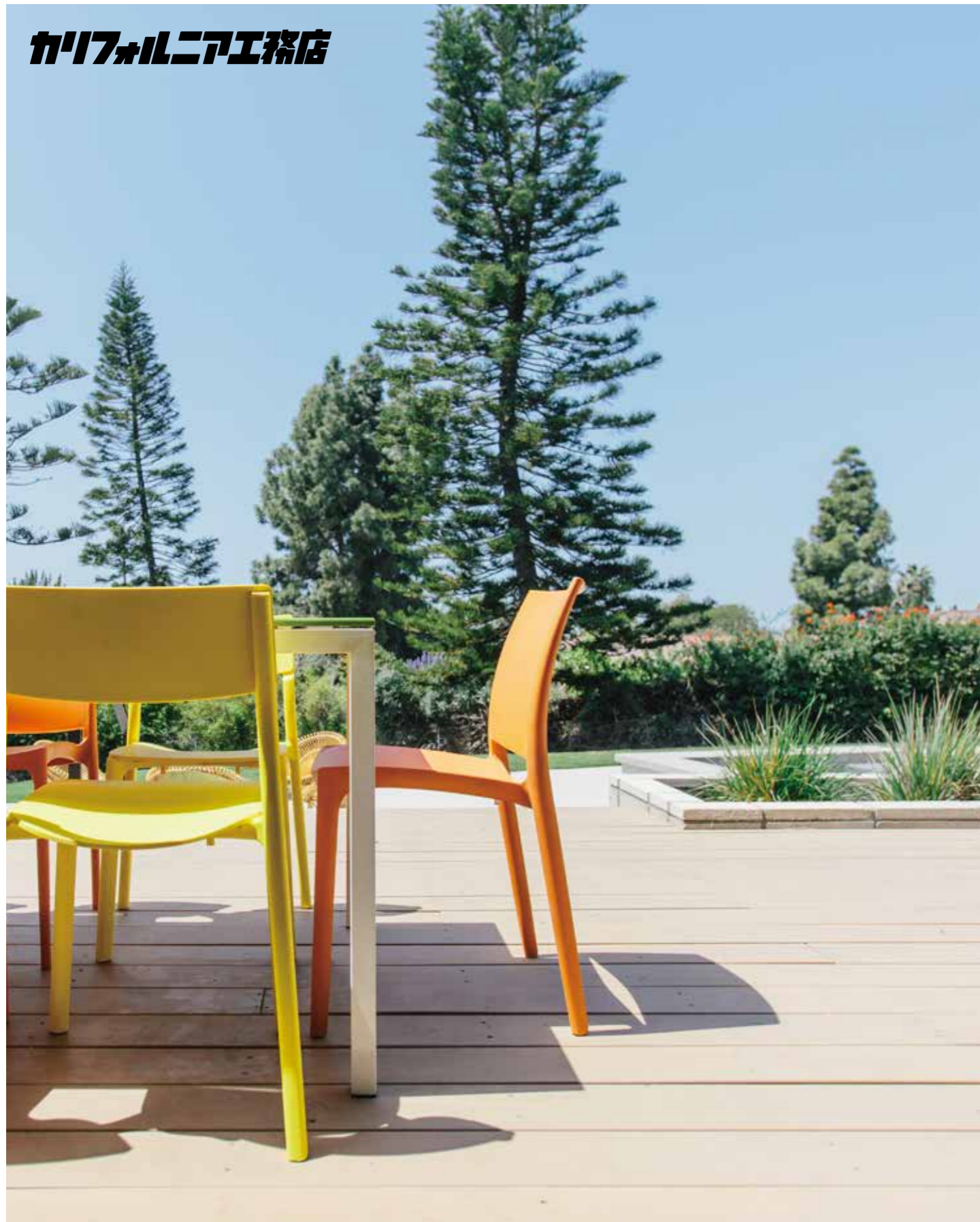


カリフォルニア工務店



カリフォルニアスタイル Vol. 12 CALIFORNIA STYLE 憧れのフラットハウスとその暮らし。

カリフォルニアスタイル Vol. 12

CALIFORNIA
STYLE



憧れのフラットハウスとその暮らし。



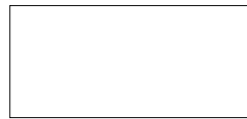
SINGLE STORY HOMES & TRUE CAL LIFE

世田谷出版社



雑誌 62415-94

定価：本体1500円 + 税



ISBN978-4-7779-5266-3
C9477 ¥1500E

カリフォルニア
スタイル Vol. 12

2018年9月20日発行
発行・発売 | 株式会社世田谷出版社
〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-13-2
販売部 Tel.03-3708-5181



David Hertz

Studio of Environmental Architecture

Architectural Interview

The Wing House property is to have several structures all made from parts from a Boeing 747-200 aircraft. Like all his designs, not only is it eye-catching, it's sustainable, environmentally sensitive and cost effective.

ベニスビーチの中心にオフィスを構えるデイビッド・ハーツは、ロサンゼルス生まれ。高校生の頃に偶然20世紀の巨匠建築家の一人John Lautnerに巡り会い、建築に興味を持つ様になったと言う。そんなデイビッドに話を聞いた。

Photos & Text / Izumi Tanaka
Special Thanks to David Hertz Architects
davidhertzfaia.com



究極のリサイクル 航空機の機体を利用した住宅

幼少期から海の近くで自然に接触しながら育ったデイビッドは、マリブでサーフィンをしていたことからサンタモニカ湾の汚染問題に関心があった。21歳の若さで建築家として独立した当時、自然を大切に建築デザインを手がけ、自然光、新鮮な外気、そして見渡しのいい空間を意識した創造を心がけている。デビューした80年代初期には環境問題はまだまだそれほど取り上げられていない時代だったが、建築素材の環境汚染や廃棄物の処理問題など、話題になる事が少なかった時代にも、デイビッドは純粋に自然を守りたいという気持ちで、素材の再利用、廃棄物の減少をデザインに取り入れていた。それが次第に、彼のシグニチャーとなった。

最も注目を浴びたプロジェクトは、ボーイング747/ジャンボジェット機体の再利用してデザインした“747ウィングハウス”。太平洋を見下ろすマリブの山で55エーカー（東京ドーム約5個）の土地を持つクライアントから新宅の設計を依頼され

た時、その周辺の地形に溶け込む翼の様なルーフィングを提案したことから始まった。クライアントがアイデアに同調したところで、デイビッドはモハビ砂漠のあたりに“飛行機の墓場”と呼ばれる廃棄機体施設がある事を思い出し、機体を原材料として\$30,000（当時）で買えることを確認。そして発案から許認可取得まで18ヶ月のプロセスが始まった。連邦航空局、国土安全保障省を始め、連邦および州の当局19軒から様々な許可を取らなければならなかったが、無事建築工事が始まり、完成まではさらに18ヶ月かかった。航空機の翼は最高度のエンジニアリングと最高の強度、最軽量であることから、住宅構造において最適な再利用材料である事も確信ができた。環境保護の観点から見ても、747の機体の大半が使用されたこと、すでに現存する大きなパーツを設計に組み込む事を考慮すると、一般的な工法より資源の利用が少ないという結果に結びついた。まさに究極のリサイクルである。

こうしてデイビッドは、長年“Sustainable Design”の先駆者として自然環境を重視するデザインに情熱を注いできた。近年では“sustainable/持続可能”



David Hertz



彼の環境保護の思想は 建築デザインにとどまらない

よりも“regenerative/再生”または“restorative/復活”と言うコンセプトで、デザインに取り組んでいる。彼の説明によると“sustainable”は、将来に向けて、これ以上環境にダメージを残さない様になること、将来の世代のために必要な自然資源を守ることが基本である一方、“regenerative”や“restorative”では、エネルギー、水、酸素などの資源を使いながらも、使う分以上を再生、回復させるシステムを開発、利用していくことだと言う。すでにエネルギーの再生は十分可能となっているが、水や新鮮な空気の再生化には、まだまだこれからの開発に期待が寄

せられている。

干ばつの続くカリフォルニアの水不足に応えるべく、空気中の湿気を摂取して水分を凝縮し、フィルターにかけて飲料水に変換する機械“SkyWater”の発明者と“SkySource”という団体を立ち上げ世界各地での飲料水の供給にも貢献している。この“SkyWater”の機械はベニスビーチにある彼のオフィスの裏側にも設置されていて、1日に150ガロンの飲料水が生産され、通りかかる人々はこの地域に多いホームレスの人々も含め、誰でも利用することができる。またこの水は、地元の非営利団体で全ての人と一緒に菜園を運営する“コミュニティ・ヒーリング・ガーデン”にも届けられている。デイビッドが長く携わっている、人道支援活動の一環である。